

第103回薬剤師国家試験に向けて

第102回薬剤師国家試験を振り返る

6年制薬剤師を輩出する6回目となる第102回薬剤師国家試験は、2017年2月25、26の両日に実施された。受験者総数1万3243名、総合合格者数9479名、総合合格率71.58%で、101回に比べ総合合格率が5.27%低下した。表1、図1に示すように6年制新卒の合格率は、85.06%（合格者数7052名）で、101回（86.24%）とほぼ同程度であった。一方、6年制既卒は50.83%（合格者数2295名）で、101回に比べ17.09%低かった。その他（旧4年制卒、4年制卒を含む）も30.21%（合格者数132名）と101回（34.29%）と比べ低い割合を示した。第101回薬剤師国家試験は、15年9月に「合格基準」が改訂されたことや99回や100回に比較して既出問題がそのまま再出題されるなど、解答しやすい問題が多く出題されたことにより合格率が上昇したが、102回は事前に101回より易化することはないだろうと分析していた通りの結果であった。「基礎力」、「考える力」、「医療現場での実践力」を問う問題は継続して多く出題されており、問題解決能力や臨床能力をもつ6年制薬剤師に対する期待を感じさせる傾向は続いている。

医学アカデミー薬学ゼミナール学長
木暮喜久子



試験は、102回と同様の傾向で、実践力・臨床能力を問われる問題は継続出題されると思われる。

18年春に実施される第103回薬剤師国家

表1 第102回薬剤師国家試験の合格率

	合格率	出願者数	受験者数	合格者数
総数	71.58%	14,701名	13,243名	9,479名
6年制新卒	85.06%	9,417名	8,291名	7,052名
6年制既卒	50.83%	4,736名	4,515名	2,295名
旧4年制卒・ 受験資格認定者	30.21%	548名	437名	132名

1 第102回薬剤師国家試験の総評と103回の合格に向けて

第102回薬剤師国家試験の平均点(換算点)は、合計(345問※1)では、101回に比べ11.55点(2.6%)低下し、「必須問題」、「理論問題」、「実践問題」のいずれも101回より低い結果となり、やや難しい試験であった。しかし、「必須問題」に関しては、わずかな低下にとどまり、ほぼ同程度であった。「薬ゼミ自己採点システム※2」による102回の領域別正答率(表2)は、例年難易度の高い「物理・化学・生物」で、物理以外は101回と比較して正答率で約10%低下した。「法規・制度・倫理」は101回で正答率が高かったが、102回では例年通りの正答率に落ち着いた。

1) 既出問題の出題は全体の20%くらいとされ、単なる正答の暗記による解答が行われないように、問題の趣旨が変わらない範囲で設問及び解答肢などを工夫することになっている。99回と100回では既出問題そのままの再出題はなかったが、101回では再出題が「物理」と「衛生」で出題された。しかし、102回では既出問題そのままの再出題はなかった(表3)。既出問題を解くことは傾向をつかむために重要であるが、答えを丸暗記するのではなく、参考書などで周辺の知識もしっ

かり勉強してほしい。

2) コア・カリキュラムの改訂(改訂コア・カリ)により、19年からの長期実務実習中に必ず体験して欲しいとされる「代表的な疾患※3」が発表されているが、実践問題を中心にその疾患が多く出題され、101回を上回る出題数であった。

※1 第102回薬剤師国家試験は4問の解なしがあり、「採点から除外する」ため、合計は341問となる。

※2 「薬ゼミ自己採点システム」: 3月28日現在、10048名のデータ

※3 「代表的な疾患」: がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症(薬学実務実習に関するガイドライン 2015年2月 文部科学省)

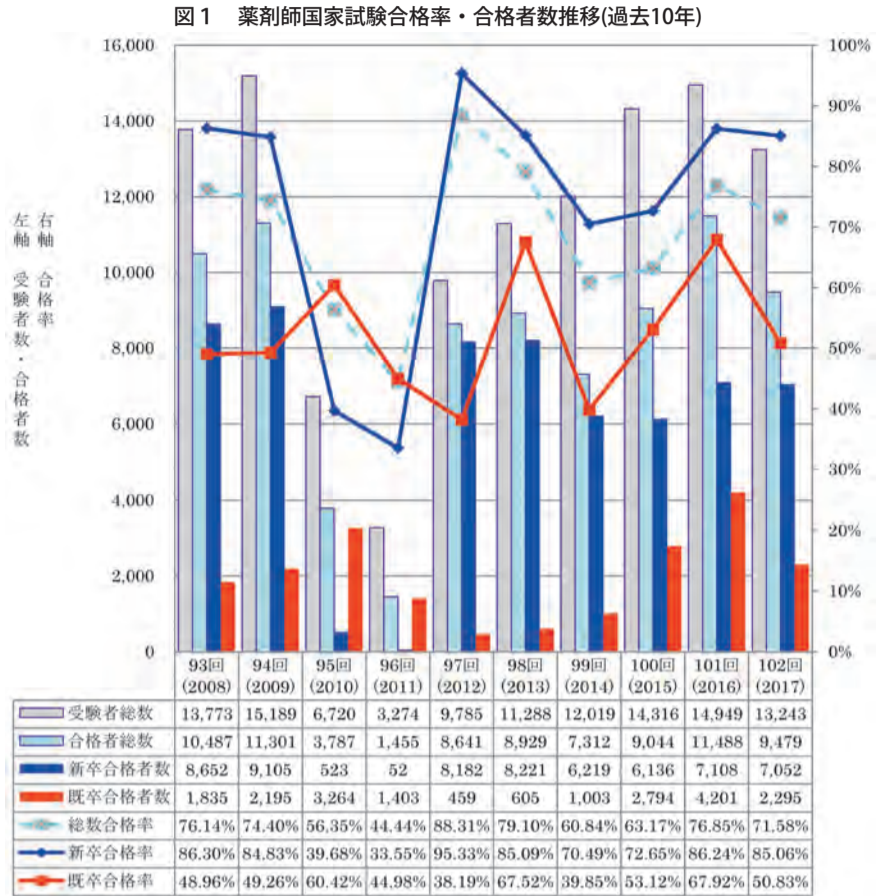
2 薬剤師国家試験の概略と103回に向けての対策

国家試験は、必須問題(90問)と一般問題(255問)の合計345問である。出題試験領域は「物理・化学・生物」「衛生」「薬理」「薬剤」「病態・薬物治療」「法規・制度・倫理」「実務」の7領域である。試験は、領域別に行うのではなく、薬学全領域を出題の対象として、「必須問題」と「一般問題」とに分け、さらに一般問題を「薬学理論問題」と「薬学実践問題」とした3区分で行われる(表4)。それぞれの出題区分は下記のような問題内容で出題される。

1) 「必須問題」は、全領域で出題され、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認する問題であり、共用試験と同様の五肢択一の問題である。また「必須問題」は、一般問題に比べて比較的正答率が高い問題が多く得点源である。「必須問題」は、80~90%の得点率を目指して勉強してほしい。また表4に示すように足切りラインを「必須問題」の各科目の得点の30%に引き下げたことや、100回まで足切りにかかる受験者が多かった「物理・化学・生物」では薬ゼミ自己採点システムにおいて85.1%と高い正答率であったた

表2 領域ごとの正答率(%)

領域系統	必須問題	理論問題	実践問題	総合
物理	90.2%	46.0%	51.4%	58.4%
化学	73.0%	48.9%	40.6%	52.9%
生物	92.0%	41.7%	62.8%	59.5%
衛生	76.2%	59.8%	59.5%	63.8%
薬理	90.3%	73.9%	77.2%	80.9%
薬剤	85.7%	69.5%	68.3%	75.3%
病態・薬物治療	79.6%	60.2%	70.0%	69.9%
法規・制度・倫理	93.3%	58.8%	72.6%	75.0%
実務	85.0%	-	72.0%	73.4%
総合	85.1%	59.1%	69.1%	70.2%



※98回以降の既卒合格率は6年制既卒を示す

め、今回は足切りで不合格になった受験者はほぼいなかった。

2) 一般問題の「薬学理論問題」は「実務」を除く全科目で出題され、6年間で学んだ薬学理論に基づいた内容の問題であり、難易度は必須問題より高い。102回は、101回と比較して薬剤の正答率は約10%高く、101回で平易であった法規は約30%低かった。例年通り、物理、薬剤、実務を中心にグラフ・計算問題が多く出題され、化学は医薬品構造式に関する問題が多かった。今後もこの傾向は変わらないと考えられる。改訂コア・カリで統合された薬理と病態・薬物治療は、国試の出題基準では別々になっているが、102回の「薬学理論問題」において、同一症例に対する問題で薬理と病態・薬物治療の連問として出題された。

3) 一般問題の「薬学実践問題」は、「実務」のみの単問と「実務」とそれ以外の科目とを関連させた連問形式の「複合問題」からなる。「複合問題」は、症例や事例を挙げて臨床の現場で薬剤師が直面する問題を解釈・解決するための資質を問う問題で、実践力・総合力を確認する問題である。102回の複合問題には、化学療法のレジメンをもとに遺伝子診断に関する実践的な問題が科目をまたいだ4連問(薬剤、薬理、2題の実務)で出題された。今後も長期実務実習の成果を問う実践的な問題は継続的に出題されるであろう。

4) 薬剤師国家試験は2日間で実施され、「必須問題」は1問1分、「一般問題」は1問2.5分で解くことになっている。時間配分を考えて、難易度の高い問題を飛ばし、解きやすい問題から解くのもよいであろう。その際は、マークシートのつけ間違いには十分に注意してほしい。

5) 101回から適応された改訂後の合格基

表3 領域ごとの既出問題出題数割合(%)

	再出題	類似	組合せ類似
物理	0%	7.4%	18.5%
化学	0%	0.0%	0.0%
生物	0%	8.0%	0.0%
衛生	0%	8.0%	8.0%
薬理	0%	2.0%	0.0%
薬剤	0%	4.0%	2.0%
治療	0%	0.0%	0.0%
法規	0%	2.5%	5.0%
実務	0%	3.3%	3.3%
合計	0%	3.8%	3.8%

※過去10年分の既出問題からの薬ゼミ定義を用いたリサーチ

〈再出題、類似、組合せ類似の薬ゼミにおける定義〉

再出題: 大問丸々完全に同じ
類似: 過半数(5記述中3記述、4記述中2記述)以上が1つの既出問題の再出題、または類似
組合せ類似: 過半数(5記述中3記述、4記述中2記述)以上が複数の既出問題の再出題、または類似

準を表4に挙げている。合格基準は一部改訂され、これまでの「総得点率65%以上という絶対基準」から「平均点と標準偏差を用いた相対基準」に変更となり、必須問題を構成する各科目の足切りを50%から30%に引き下げたほか、35%に設定されていた理論・実践の各科目の足切りは廃止となった。しかし「当分の間、全問題への配点の65%以上であり、かつ、他の基準を満たしている受験生は少なくとも合格となるように合格基準を設定する」とある。

3 科目別総評と科目別102回の傾向

■「物理」

難易度は、「必須問題」はやや平易、「理論問題」はやや難、「実践問題」は物理: 難、実務: 中等であった。必須問題は、101回と同様に知識の確認をする問題が多かったが、他科目の知識を必要とする問題もみられた。理論問題は、物理化学ではグラフや文章を読み取り解答する問題、計算問題などが難解で

あった。一方、分析化学は例年通り局方の問題が多く、既出問題を解くことで正答できる問題が出題されている。実践問題の物理領域は難易度が高く、図から状況を判断して解答する問題、グラフを用いた問題、構造式を用いて考える問題が出題されているため、考える力や他科目とのリンクが重要であった。全体として、既出問題からそのままの出題は非